

令和 6 年度第 4 回
朝霞市地域福祉計画推進委員会
朝霞市地域福祉活動計画推進委員会 議事録

令和 7 年 3 月 1 4 日

福祉部 福祉相談課

別記様式（第4条関係）

会 議 録

会 議 の 名 称	令和6年度第4回 朝霞市地域福祉計画推進委員会 朝霞市地域福祉活動計画推進委員会	
開 催 日 時	令和7年3月14日（金） 午後1時30分から 午後3時20分まで	
開 催 場 所	朝霞市総合福祉センター 第1・第2会議室	
出 席 者	別紙のとおり	
会 議 内 容	別紙のとおり	
会 議 資 料	別紙のとおり	
会 議 録 の 作 成 方 針	☒ 電磁的記録から文書に書き起こした全文記録	
	☐ 電磁的記録から文書に書き起こした要点記録	
	☐ 要点記録	
	☐ 電磁的記録での保管（保存年限 年）	
	電磁的記録から文書に書き起こした場合の当該電磁的記録の保存期間	☒ 会議録の確認後消去 ☐ 会議録の確認後 か月
	会議録の確認方法 委員全員による確認	
そ の 他 の 必 要 事 項	傍聴者 0人	

令和6年度第4回

朝霞市地域福祉計画推進委員会・朝霞市地域福祉活動計画推進委員会

令和7年3月14日（金）

午後1時30分から

午後3時20分まで

総合福祉センター第1・第2会議室

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 議題

（1）第5期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画の策定に係るアンケート調査・団体ヒアリングの結果報告について

（2）第5期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画策定に係る地域懇談会の結果報告について

（3）グループディスカッション

（4）その他

4 閉 会

出席委員（10人）

委 員 長

丸 山 晃

副 委 員 長

土 佐 隆 子

委 員

宮 本 雄 司

委 員

池 田 玉 季

委 員

尾 池 富美子

委 員

中 村 敏 也

委 員

村 串 克 己

委 員

横 田 暁 子

委	員	池 田 直 弥
委	員	山 岸 亮

欠席委員（８人）

委	員	川 村 岳 人
委	員	田 畑 康 治
委	員	新 坂 康 夫
委	員	伊 藤 允 光
委	員	木 村 宏
委	員	中 村 加津雄
委	員	岡 田 都 子
委	員	小 川 律 子

市事務局（４人）

事	務	局	福祉部長	佐 藤 元 樹
事	務	局	福祉相談課長	山 木 健
事	務	局	福祉相談課地域福祉係主任	下 川 晃 秀
事	務	局	福祉相談課福祉相談係主任	高 麗 大 輔

社会福祉協議会事務局（４人）

事	務	局	常務理事	渡 辺 淳 史
事	務	局	地域福祉推進課長	白 木 順 子
事	務	局	地域福祉推進課長補佐兼係長	上馬場 徹
事	務	局	地域福祉推進課地域福祉推進係主査	秋 山 晋 司

計画策定支援事業者（２人）

株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所：大塚氏、國分氏

資料一覧

< 事前配付 >

- ・ 資料 1－1 第 5 期朝霞市地域福祉計画・第 5 期朝霞市地域福祉活動計画策定にかかるアンケート調査・グループヒアリング結果報告書
- ・ 資料 1－2 I アンケート調査の概要
- ・ 資料 2 第 5 期朝霞市地域福祉計画・第 5 期朝霞市地域福祉活動計画策定に関する地域懇談会 朝霞の「ふくし」考えてみませんか2024 実施結果報告書
- ・ 資料 3－1 第 5 次朝霞市総合計画基本計画体系図
- ・ 資料 3－2 第 6 次朝霞市総合計画前期基本計画（素案）施策体系図
- ・ 資料 4－1 令和 5 年度 第 4 期朝霞市地域福祉計画進行管理・評価シート
- ・ 資料 4－2 令和 5 年度 第 4 期朝霞市地域福祉活動計画進行管理・評価シート

< 当日配付 >

- ・ 次第
- ・ 資料 2－2 地域懇談会の実施概要
- ・ 資料 5 令和 7 年度計画策定スケジュール

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

◎1 開会

○事務局・下川主任

皆さん、こんにちは。定刻となりましたので、朝霞市地域福祉計画推進委員会及び地域福祉活動計画推進委員会を始めさせていただきます。

本日は、お忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。本日、司会を務めさせていただきます、朝霞市役所福祉相談課の下川と申します。よろしくお願いいたします。

まず初めに、本会議は会議録作成のため録音させていただきますので、あらかじめご了承ください。

続きまして、本会議は「審議会等の会議の公開に関する指針」により、原則公開となっております。今の段階で傍聴を希望されている方はいらっしゃいませんが、このあと会議の途中で傍聴希望者があった場合には、傍聴席の範囲内で入場していただきますので、あらかじめご了承ください。

◎2 委員長あいさつ

○事務局・下川主任

それでは、開会にあたりまして、丸山委員長よりご挨拶をいただきたいと思います。委員長、よろしくお願いいたします。

○丸山委員長

皆さん、こんにちは。年度末で大変忙しいところですが、今年度としては最後になります。この委員会に来ていただいて、ありがとうございます。

今回、お手元にある資料、事前にメールなどで送っていただきましたけれども、すごく大量の、字が小さくて老眼には読むのが少しきつい資料が届いたかと思います。昨年中に実施していただいた地域福祉計画・地域福祉活動計画策定のアンケート、団体ヒアリング、地域懇談会のそれぞれの報告になります。今日はそれがメインになるのですが、ずっと聞いているとつまらないし、読むといってもなかなか時間のかかることなので、事務局の方からポイントをかいつまんで30～40分くらいでご説明をしていただきます。

皆さんはそれぞれ、朝霞市内でいろいろな活動をされていたり、いろいろなバックグラウンドを持っていらっしゃるの、これを聞いたり読んだりして、何か思いがあるかと思います。それだけではなく、聞きたいこともあれば、今の朝霞の地域福祉の課題などもそれぞれに感じて、それぞれの思いもあると思います。毎回、この会議は非常に、時間が押してしまうところもありましたので、今回は少し手法を変えて、後半はグループでディスカッションというか、それぞれの意見や考え方を述べ合ったり、それをお互いに補足し合ったり、いろいろ質問し合ったりということができるようになりました。実際、グループでの話し合いは全体の中の3分の1取れるかどうかという

時間配分になってしまうのですけれども、全体で一人ずつ順番に感想や質問を述べるよりは、より多くの発言がいただけるように工夫をしてみたところです。

なので、後ほど事務局からの2つの大きな報告をいただいたあと、簡単な確認事項については全体で少し質疑応答をしたいと思います。そのあと、このアンケート、ヒアリング、地域懇談会の報告を聞いて、グループごとに、私はこちらに入りますが、それぞれのグループ内で、それを聞いて考えたことや感想、また、内容だけではなくてご自身の日頃朝霞が暮らしておられて、もしくは活動の中で感じていることももちろん踏まえながら述べていただいて結構だと思います。それプラス、4月から、今度は新しい地域福祉計画の策定という次のステップに入っていきますので、この調査などを踏まえて、もしくは日頃の活動、市民生活を踏まえて、朝霞の地域福祉として今課題として感じていることなども述べていただければと思っています。

そして、全体共有ということでそれぞれのグループから発表していただくのですけれど、全部を発表するのはどだい無理なので、それぞれのグループの代表の方に、こんな論点が出たとか、話し合いを踏まえて自分がどう思ったということで結構ですので、全体共有をできればと思っています。グループの話し合いには、後ろの事務局の市役所の方と社協の方も入っていただいて、皆さんの話を聞いていただいて、また事務局の方で持ち帰っていただけるようにしたいと思っています。

年度末の本当に忙しいところですが、いつも終わりの時間が明確ではないという部分もあったので、今回は、資料にはないのですけれども、2時間であれば3時30分ですが、それより10分早く、3時20分に終わりたいと思っています。そのような形で進めていきます。今日はそれぞれの参加の皆さんの多くの意見を聞かせていただければと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、事務局に戻したいと思います。よろしくお願いします。

◎3 議題

○事務局・下川主任

ありがとうございました。

それでは、議事に先立ちまして、配付資料のご確認をお願いいたします。本日の資料ですが、皆様には事前にメールもしくは郵送で送付させていただきました。メールで送付させていただいた方につきましては、印刷してご持参いただくのは大変だろうということで、一式を机に置かせていただきました。事前に紙で印刷のものを配付させていただいた方は、ご持参いただいているかと思えます。本日追加で資料を配付させていただいたものもごございます。そちらは机上に配付させていただきましたので、併せてご確認をお願いいたします。

まず、1点目ですが、次第です。次第は事前にお送りしたものと少し変わっておりますので、本日、机に置かせていただいたものと差し替えをお願いいたします。2点目が、資料1-1「第5期朝霞市地域福祉計画・第5期朝霞市地域福祉活動計画策定にかかるアンケート調査・グループヒア

リング結果報告書」、横向きに印刷されている分厚い冊子のものです。資料１－２「Ⅰ アンケート調査の概要」、ホチキス留めの１０ページほどあるものです。資料２「第５期朝霞市地域福祉計画・第５期朝霞市地域福祉活動計画策定に関する地域懇談会 朝霞の『ふくし』考えてみませんか2024 実施結果報告書」、こちらもホチキス留めで、表紙にキャラクターが描かれているものです。続きまして、資料２－２、こちらは本日追加で配付させていただいたもので、「地域懇談会の実施概要」ということで、クリップ留めされている資料です。資料３－１、字が小さくて申し訳ございませんが、「第５次朝霞市総合計画基本計画体系図」。資料３－２「第６次朝霞市総合計画前期基本計画（素案）施策体系図」。資料４－１「令和５年度 第４期朝霞市地域福祉計画進行管理・評価シート」。資料４－２「令和５年度 第４期朝霞市地域福祉活動計画進行管理・評価シート」。資料５、こちらも本日配付させていただいたもので、「令和７年度計画策定スケジュール」。資料は以上の１０点になりますが、おそろいでしょうか。ご確認ありがとうございます。

それでは、本日の会議に入りたいと存じます。本日の委員の皆様の出席状況ですが、委員１８名中１０名の方にご出席いただいておりますので、朝霞市地域福祉計画推進委員会条例第７条第２項の規定に基づきまして、会議が成立することをご報告いたします。

次に、本日の会議についてご説明いたします。本日は、次第にもありますとおり、議題（１）で「第５期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画の策定に係るアンケート調査・団体ヒアリングの結果報告について」、議題（２）で「地域懇談会の結果報告について」、そして議題（３）で「グループディスカッション」をご用意させていただきました。議題（１）と議題（２）のアンケート調査や地域懇談会につきましては、本委員会において皆様のご意見を伺いながら実施してきたものになります。おかげさまで全て無事に終了し、結果もまとまってまいりましたので、本日はその結果についてご報告させていただきたいと思います。アンケート調査結果につきましては、資料１－１がその報告書になりますが、かなり膨大な量になりますので、本日は、結果の概要をまとめた資料１－２を使って説明したいと思います。また、議題（２）の地域懇談会につきましても同様に、資料２が報告書となっておりますが、説明は資料２－２を使って説明したいと思います。

議題（１）と議題（２）の説明終了後、議題（３）では、グループディスカッションを行いたいと思います。グループディスカッションは、現在の席のまま２つのグループに分かれて行います。進行役のファシリテーターには、丸山委員長と宮本委員のお二人にご協力いただきまして、これからご説明するアンケート調査や地域懇談会の結果につきまして、皆様のご感想などを頂戴できればと思っております。３０分ほどグループディスカッションのお時間を取りたいと思います。最後には、各グループでどのような意見が出ていたか、発表のお時間も取りたいと思いますので、皆様、進行にご協力いただきますようお願いいたします。

それでは、ここからは委員長に議事の進行をお願いします。委員長、お願いいたします。

○丸山委員長

それでは、実際の議事に入りたいと思います。本当に膨大な調査の結果がお手元にあると思いま

す。中には、しっかり大きな字で印刷されていらっしゃる方や、付箋をたくさん付けていらっしゃる方もいらっしゃると思います。全てを読んでいただくと大変な量になりますので、今日はポイントだけをお話しいただくのですけれども、お話しいただいたポイントのところ以外でも、それぞれ事前に読んでいただいたことなどがありましたら、後ほど質問等いただければと思っております。なお、前回のこの会議で、いろいろと調査の項目や方法について、特に児童生徒の調査を含めてご意見を頂戴しました。それらを私と事務局の方で調整をして、結果的にこういう形での調査の方法と内容になりました。全ての意見を反映できなかった点はあるかもしれませんが、その点はご了承くださいければと思っています。

◎ 3 議題（１）「第５期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画の策定に係るアンケート調査・団体ヒアリングの結果報告について」

議題（２）「第５期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画の策定に係る地域懇談会の結果報告について」

○丸山委員長

それでは、議題（１）の「第５期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画の策定に係るアンケート調査・団体ヒアリングの結果報告について」と、議題（２）の「第５期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画策定に係る地域懇談会の結果報告について」を２つ続けて、事務局から説明をお願いしたいと思います。では、よろしくお願いします。

○事務局・高麗主任

では、ご説明を始めさせていただきます。朝霞市役所福祉相談課の高麗と申します。よろしくお願いします。

まず、議題（１）「第５期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画の策定に係るアンケート調査・団体ヒアリングの結果報告」についてご説明いたします。

皆様には、アンケートの作成に関しましてたくさんの意見をいただき、ありがとうございました。また、アンケートの回答をいただいた委員の方々ですとか、あと、団体ヒアリングに参加いただいた委員の方もいらっしゃいます。多方面からいろいろご協力いただき、どうもありがとうございました。おかげさまで、無事、アンケート、団体ヒアリングの報告書を作成できましたので、そちらのお話をさせていただきます。

それでは、まず資料１－１をご覧ください。こちらがアンケート調査と団体ヒアリングの各問に関する答え、どのような割合で回答があったかですとか、あとは、年齢別やその回答をいただいた方の属性別など、いろいろなものを組み合わせたクロス集計をまとめたものとなっております。本日は、こちらについてのまとめを抜き出した、資料１－２を中心に説明させていただきます。

資料１－２をご覧ください。まず、アンケート調査の概要、集計結果から説明いたします。今まで皆様に説明させていただいたとおり、今回は市民、こども、専門職、団体の４種類のアンケート

を実施させていただきました。今回のアンケートにつきましては、QRコードやWEBによる回答ができるようにいたしました。

2ページ目に移らせていただきます。アンケートの回収結果ですが、市民アンケートでは3,000件、こどもアンケートでは1,000件、専門職アンケートでは450件、団体アンケートでは83件に配付しました。回収率としては、団体アンケートを除くとどのアンケートも30%を少し超えたくらいの集計結果となっております。

次のページから、各項目別に分けたアンケート調査結果のまとめがあります。そのまとめから課題や方向性を見ていきたいと思えます。

まず、「1. 福祉関連の情報発信・周知」についてご説明いたします。こちらは前計画（第4期）のアンケートと比べますと、「広報あさか」から情報を得ている方が多いというのは依然変わらない状態ですが、前と比べますとホームページやSNSで情報を得ている方が増えているということが分かりました。今回、アンケートをQRコードやWEBで行ったように、情報発信の方法もLINE、X、Instagram等、増えており、そこから情報を得る方も増えている状態ですので、情報発信の方法を工夫していきたいと思えます。

「2. 相談支援体制の強化」ですが、悩みは特にないという方も多いですが、「ほとんど支援を受けていない」、「どこに相談してよいか分からない」という方の割合も多かったです。相談支援体制の整備が必要との回答も多かったので、複雑な相談に対応する重層的支援の相談体制や、相談場所が分からない方に対するアウトリーチの支援が必要となっていることが分かります。

次のページです。「3. 子育て支援の充実」についてですが、回答の割合としてはこどもへの虐待防止対策などが多く、近年問題として取り上げられるヤングケアラーの方への支援等についても問題として挙げる方が一定数いらっしゃいました。他市の地域福祉計画などを見ると、ヤングケアラーへの対策を施策の大きな柱としているところもありますので、朝霞市としても対策していかなければいけない問題となっていきます。

「4. 高齢者支援の充実」についてですが、前回のアンケートと比べて、暮らしにくくなったという意見や孤立防止対策、生きがいつくりなどについての意見が多かったです。地域と連携して生きがいつくりの場を高齢者の方々に提供していくことが必要となります。

次のページ、「5. 障害者支援の充実」についてですが、前回のアンケートと比べて、暮らしやすくなったとの意見は多くいただいたものの、今後も障害のある人が地域で自立していくための支援や、障害のある人が地域で自立して生活するための支援が必要との回答を多くいただいています。今後も行政、地域のどちらからも支援をしていく必要があります。

「6. 地域コミュニティ・地域活動の活性化」についてですが、近所付き合いに大きな変化はないと回答していただいている方が多いですが、その一方で、付き合いが減ったという方が、増えた方に対して2倍以上いることが分かります。朝霞市は交通の便が良く、仕事で転居してくる方も多いので、住んで5年未満の方もかなり多くなっていますので、年数の浅い方々でも気軽に行ける場

所を作っていくことが重要になっていきます。

次のページ、「7. 防災・防犯対策の強化」ですが、災害時の安否確認や避難誘導などの防災活動を優先すべきとの回答が多い一方で、防災訓練の参加割合は低いので、防災に関する情報提供や、活動に参加しやすい体制を作る必要があります。前回アンケート時と比べまして、防災対策に不安があるとの回答も増えておりましたので、市民の皆様も災害に関する不安を今まで以上に感じている方が増えているところです。

次のページ、「8. 生活困窮者への支援」ですが、優先すべき支援として生活困窮者への支援の回答が多いことや、ひきこもりの方がいる家庭では、困窮者支援、就労支援、こどもの貧困対策を優先すべきとの回答が多くなっています。今後の生活困窮への支援では、ひきこもりになっている方への支援や、複雑な相談に対する対応ができる体制を作っていく必要があることが分かります。

「9. 外国籍市民への支援」についてですが、外国籍の方は他の区分と比べて近所付き合いを深めたいと回答していらっしゃる方が多くなっております。また、今まで参加したことがあるコミュニティ活動として、外国人の方との交流活動を挙げる方があまり多くないのに対して、今後地域で参加したい活動として挙げる方は多くなっていますので、現状は参加はできていないけれども興味を持っていらっしゃる方は多くなっていることが分かります。交流できる活動を増やすことや、情報提供を工夫していくことが必要となっていくと思います。

次のページ、「10. の交通・移動環境の充実」についてですが、自由意見でコミュニティバスの充実や、高齢者、障害がある方への外出支援としての移送サービスの充実等についての意見がありました。今後もバスの増設等について、需要を確認しながら検討していく必要があります。

「11. 専門職や団体への支援・ネットワークづくり」についてですが、現在連携している相手、連携したい相手ともに、市役所、地域包括支援センター、民生委員、児童委員が多くなっております。団体活動を行う上での困りごととして多いのが、新しい活動者が入らない、支援を必要とする情報を得にくいとの回答を一定数いただいているため、連携先からの情報発信、個人情報の取り扱いなどの整理をしていく必要があります。

アンケート調査に対する説明は以上となります。

続きまして、次のページから、団体ヒアリングについての話に移ります。団体ヒアリングでは、アンケートにご回答くださった団体の方々の中で、ヒアリング参加の承諾をいただいた団体にお声掛けしまして、その結果、14団体の代表の方にご参加いただきました。こども、高齢者、障害者、地域活動の4分野に分けまして、4回に分けてヒアリングを行いました。

次のページに、主な課題・方向性を書いています。いただいた意見の中で、まず、団体活動をするためや単純に集まるために、予約や費用の負担なく気軽に集まれる場所が欲しいという意見がどの分野でも一番多く聞かれたところでした。

また、団体の活動に参加したことがある方や町内会に加入していらっしゃる方については、その方の情報があるので、その方に活動に参加してもらうようお話しすることができますが、そのよう

な情報を得る機会がない方については活動に参加してくれるよう話をするのは難しいので、支援を受けられず困っている人を見つける仕組みを作ることが望まれるとの話が多かったです。

また、町内や地域で若い人も参加するようなイベントがあると、地域の交流が生まれてくるとの意見も多かったです。

議題（１）の説明は以上とさせていただきます。アンケート・ヒアリングの内容や、議題（２）の説明後に行わせていただくグループディスカッションでの意見を参考に、今後、計画の骨子案を作成させていただきたいと思います。

まずはここまで、どうもありがとうございました。

○社会福祉協議会・秋山

続きまして、「第５期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画の策定に係る地域懇談会の結果報告」についてご説明させていただきます。社会福祉協議会の秋山と申します。よろしくお願いいたします。

こちらの説明にあたりまして、お手元の資料２－２と書かれたＡ４の１枚とチラシがクリップ留めされているものをご覧ください。こちらの資料につきましては、資料２の実施結果報告書を基に作成しております。

まず、「１－１ 地域懇談会の目的」についてですが、第５期朝霞市地域福祉計画及び第５期朝霞市地域福祉活動計画の策定にあたり、市民の方が普段の地域生活の中で感じていることや、地域の課題と感じていることを伺い、それらに対して自助、互助の観点で意見を出し合うことで、計画における取組の参考とすることを目的として実施いたしました。

「１－２ 実施日時・場所・参加人数」は、表のとおりとなっております。全６回開催し、合計１０６人の方にご参加いただいております。参加者の年齢は、７０代が３１．３％で最も高く、次いで５０代が１７．７％でした。こちらの表には記載がないのですが、１０代から３０代の若い世代の参加も１５．６％ありました。こちらの年齢の内訳につきましては報告書の１５ページに掲載しておりますので、後ほどご確認いただければと思います。

また、今回、保育の対応が１件。手話通訳の対応が１件ございました。そのほか、障害をお持ちの方や大学生にもご参加いただいております。こちらの参加者をグループ分けしてグループワークを行いました。グループ分けについては、住んでいる地域別や年代別等、どのように分けるかいろいろ検討しましたが、普段交流していない様々な方と交流していただいた方がよいだろうということで、今回はランダムにグループ分けをさせていただいております。

続きまして、「１－３ 周知・募集方法」でございますが、こちらは社協のホームページ、ＳＮＳで周知し、「広報あさか」にも掲載いたしました。また、チラシの配布・市掲示板へ掲出したほか、社協の各部署や運営施設のイベントの際にも声掛けを行い、募集を行っております。申込方法につきましては、添付しているチラシにも記載されていますが、メール、ＦＡＸ、ＷＥＢ、電話など様々な方法で受付を行い、電話申込が２４人と最も多く、次いでＷＥＢ申込が２１人となっております。

す。推進委員の皆様にも周知のご協力をいただきまして、誠にありがとうございました。また、お忙しい中ご参加いただきました委員もいらっしゃいました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

「1-4 懇談会の全体プログラム」につきましては、まず、オリエンテーションを実施しました。このオリエンテーションの中では、懇談会の目的や地域福祉についてご説明させていただき、また、統計資料から朝霞市の現状を全体で確認いたしました。懇談会のメインであるグループワークでは、3つのテーマに沿って話し合いを行っております。まず始めに、「5年後の朝霞市がこうなったらいいな」と思う未来の姿をイメージしていただきまして、グループで共有いたしました。次に、現在の朝霞市について、現在の状況を踏まえて、課題や問題に感じているところだけでなく、今の朝霞市の強みや良いところを挙げていただいて、現状を共有しております。3つ目のテーマですが、最初に考えた「こうなったらいいな」というイメージを目指して、地域をより良くするために取り組んでいくことを挙げて、その中で自分自身や地域住民でできること、行政や社協など組織的に取り組んだ方がよいというところを話し合っていたいただきまして、最後に発表という形で参加者全体に共有しております。

続きまして、裏面の「2-1 実施結果と主な意見」についてご説明いたします。全6回の懇談会で共通して多く挙げたキーワードと主な意見を記載しております。特に（1）に記載しております「交流の場／近所付き合い」のワードに関しては、全6回の懇談会の中で、ほぼ全てのグループがキーワードとして挙げていました。そのほか多かったものとしましては、交通移動、交通に関する話題、高齢者に関する話題、防犯・防災に関する話題が多く挙がっておりました。

続きまして、「2-2 参加しての感想」です。こちらは懇談会終了後にいただいたアンケートの話になります。こちらで採ったアンケートでは「とてもよかった」、「よかった」が全体の94.6%となっており、「様々な人と出会い、話すことができた」、「地域の状況を知ることができた」など、地域懇談会実施に関する前向きな感想を多数いただいております。一方で、会場の広さに対するご指摘、これは、グループワークをするにはグループごとの距離が近く、会場が狭かったというご意見でございます。また、朝霞市内の各地域の話がもう少し深掘りできればよかったというご意見、オリエンテーションで取り扱った朝霞市の統計データがグループワークであまり触れられていなかったことが少しもったいなかったというご意見もございました。これらのご意見は、今後、社協で地域懇談会を開催する際の参考にさせていただきたいと考えております。

最後になります。「3. 懇談会から見えた課題」につきましては、参加した人の多くの方が地域住民同士の付き合いの希薄化を感じていました。近所に住んでいる人と顔の見える関係性を築くための交流の場や、交流の機会を求めるとのご意見が多く挙がっていました。そのために空き家の活用や地域でのイベントや事業を増やせるとよいというご意見もありましたが、地域の中には交流できる場やイベントが割と多くあり、その情報が行き届いていないのではないかとのご意見もございました。また、交流というところでは、最近、こどもの警戒心が非常に強く、挨拶しづらいというご意

見もありまして、地域全体で子どもを見守る地域づくりの必要性も求められておりました。交通に関するテーマでは、バスの本数増加や移動支援サポートの充実といった交通整備への意見が挙がるとともに、歩道の整備が進んで地域にちょっとした休憩スペースが増えてくれば、徒歩で外出できる範囲が広がるというご意見も挙がっておりました。そのほか、情報伝達として使い慣れた紙媒体を継続してほしいという意見や、SNS、スマホなどの電子媒体の使い方が難しいというご意見もいただいております。

議題（２）の説明は以上でございます。このあとのグループディスカッションでもご意見をたくさんいただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

○丸山委員長

ご説明ありがとうございました。グループディスカッションに入る前に、今、アンケート調査・団体ヒアリングの結果報告と、地域懇談会の結果報告の２つをいただきましたが、全体に関わる確認したい点や、もう少し内容について聞きたい点などがありましたら、ここで少し時間を取りたいと思います。皆さんの中で、何か質問や確認したい点はありますか。ありましたら手を挙げていただければと思います。

○宮本委員

質問というか意見として、例えば報告書本体の「アンケート調査・グループヒアリング結果報告書」の２２ページ辺りです。ほかにもいろいろ確認する点はあるのですが、これは、クロスしていただいているので何となくは分かるのですが、これもただ数値を出すだけでは意味がなく、これをどう読み解くかというのが大事です。サマリーでまとめるとその辺が飛んでいってしまうので、例えば、２１ページの下「ひきこもりの状態である」は、 n が１５で全体の中では割合として少ないのですが、「近所付き合いはかなり減った」が４割なので、どちらが因果関係かというのは分かりかねるところではあるのですが、関連性は高いので、ひきこもりにならないように近所付き合いは保っておく必要があるだろうとか、ひきこもりになってしまったら近所付き合いは減っている、ではその要因は何なのか。例えば近所から疎外感を受けるとしたら、何らかの手法が必要とか、必ずしも近所だけではなくて、近所ではないところとのつながりは持つておくとか、そういう代替案が必要だと思うので、この辺、数は少ないですが、そういったところにも着目していく必要があるかと思います。

例えば２２ページも一緒に、暮らしやすさ別で出していただいているのですが、「暮らしにくくなった」が６３で、こういう回答も、本当はここも市とか社協もそうですし、特にコンサルの方に伝えたいのですが、これをきちんと市や社協に伝えて、こういうところに着目していきましょうとかということを書いてほしいです。それがコンサルの役割だと思いますので、ぜひお願いしたいと思います。

そうすると、１７％が「近所付き合いはかなり減った」なので、これも因果関係は分からないですが、暮らしにくくなったから近所付き合いが減ったのか、近所付き合いが減るから暮らしに

くいと感じるようになったのか、そこはとても大事なポイントなので、やはりアンケートも1個1個丁寧に見ていきながら、そこから具体的な施策につなげていくということが必要ではないかと思っています。

ここを全部細かく説明していただくと1日あっても足りないというのは私も承知しているのですが、ピンポイントで、それぞれの委員の皆さんもそうですし、市の方、社協の方、コンサルの方それぞれでいいと思うので、自分の中で気になったポイントを出し合いながら、ここはこうではないかというのを、このあとのディスカッションを踏まえて皆さんに見ていただくといいのではないかと思います。

○丸山委員長

宮本委員、ありがとうございました。このあとのディスカッションで、もちろん全部の意見を出し切れなと思いますので、資料はまだまだ読み込む時間はあると思いますので、年度が明けて1回目の委員会までに、質問や意見があれば遠慮なく事務局の方にお寄せいただければと思っています。

ほかに何かご意見やご質問、確認事項などありますでしょうか。

○尾池委員

資料1－2の4番の「回収結果」ですけれども、団体調査のところだけは前回のものと比べてときに、調査対象「配布数」というところが若干減っているだけなのですけれども、あと、ほかはかなり配布数も減っていて、回収率も、団体調査以外は専門職も回収率がかなり悪いのですけれども、これでよしとするのでしょうか。どうしてこれだけ、目標そのものも、前にも質問いたしましたけれども、目標が前に比べたら低い。大抵は目標は高くなるのに目標そのものも低いという意見を出しましたけれども、結果としてかなり低いのですけれども、これでよしとするのでしょうかということを、1つ、資料をいただいたときに感じました。

○丸山委員長

ありがとうございます。この「回収結果」の回収率について、何か事務局の方で分析とか、こういうことが原因ではないかとか、この数字自体について所感などありますでしょうか。

○事務局・高麗主任

回収率についてですけれども、おっしゃるとおり、目標を高くと言われていたのにこの回収率となっているのは、申し訳ないところはあるのですけれども、原因としましては、まず、市役所にも「アンケートは本物ですか」という連絡もかなり来ていたところですので、まず、アンケートに対する不安などが上がっているというところはあると思います。

今回良かった点を挙げさせていただくと、QRコードやWEBでの回答を可能にして、特にこどもアンケートではWEBでの回答率が4割を超えていました。年齢が違うので単純比較はできないのですけれども、こどもアンケートについては、前回行った若者アンケートより回収率が上がっているというところもありますので、回答方法を今後も工夫して行って、回収率を上げていきたいと思

っております。

○丸山委員長

ありがとうございます。こういうものの回収率はなかなか難しいところで、これを高いと見るか、低いと見るかは難しいところですが、なるべく多くの人に回答していただく方が当然いいわけですが、尾池委員がおっしゃったようにこれが結果なので、良し・悪しではなく、これをどう読むかということをもた後ほど考えていきたいと思います。

ほかにはいかがでしょうか。全体的な質問や確認事項などはよろしいでしょうか。

今日は、長い時間の中で、いったんここで休憩を取りたいと思います。今、2時15分になるところなので、5分間だけですけれども、2時20分まで、休憩を取ったり読み込む時間とか考える時間として、2時20分になりましたら、それぞれのグループで話し合いなどを30分くらいしたいと思います。トイレ休憩とか、読み込む時間とかを含めて、2時20分まで休憩を取りたいと思います。その間に、事務局の方でも、どちらに入るかなどいろいろ調整していただければと思います。

では、2時20分になったら再開します。

◎3 議題（3）グループディスカッション

（2テーブルに分かれてグループディスカッションを行った）

グループディスカッション（A班）

○村串委員

避難所であるとか訓練であるとか、そういったところへの関心が少ない。いざ自分が助けをもらう場合、あるいはご近所の方を助けられるか、そういったところをもう少し踏み込んで考えてもらえればと思う。訓練然り。実際問題、訓練というのは楽しくないので、参加が少ないのかと。訓練も方法を変えて、何かのイベントに入れたような楽しい訓練にして、できるだけ集まって、少しずつ皆さんに感心を持ってもらうといいのではないかと思います。

○村串委員

行政で行う訓練は、何年かに1回、大規模であるが、あれはセレモニー。自衛隊、警察、関連機関が来て、市長、議員が挨拶して、いつも全く同じ形でやっている。本当に、そんなものはつまらなくて仕方がない。もっと本当に自分たちが実際に被災したときに欲しいようなものを勉強したい。大掛かりでなくても、小さな訓練、ご近所でやるような訓練をセットでやった方がよほど役に立つ。例えば学校で、避難所まで行けるかどうかの問題がまず第一。防災とは、言ってみれば、自分が生き残ることが大事。それも、けがをしないように。ではどうするかというと、まず、自分の家を耐震化する。せめて寝ている所だけでも、たんすも低いものにして、高いものは置かない。阪神の時は、ぐらぐらっときて倒れて圧死したという例がたくさんある。3.11の時は津波と火災。朝霞は津波の心配はないが、川が氾濫して水害はあり得る。その地域の特性に合った訓練にそ

ろそろ移行しないと、助かる命も助からない。

○丸山委員長

災害の時に誰かに助けてもらおうといっても、本当は地域、隣近所が一番重要なのは、今までの災害で分かっているし、いざというときの助け合いは日頃からの豊かな関係がなければできないことも学んでいる。災害に備えることは日頃の日常の豊かな関係とか居場所とか、自分と誰かがつながっているということがとても重要。それを日頃からどのようにやっていくか。

○村串委員

非常食を買って家に置くのが防災ではない。例えば3日ものを食べなくても、水があれば人間は死ぬことはない。まず、自分が元気で生き抜かないと、助かる命も助からない、助けることもできない。逆に要救助者になってしまう。自分が元気で、日頃から顔の見えるお付き合いをしていれば、あそこには歩けない人がいると分かる。

○丸山委員長

高齢者、障害を持っている人、病気の人、いわゆる避難行動要支援者と言われる人、薬などの備蓄が難しい人、そういう人たちを含めた施策がきちんと見えるようにしなければ駄目。

○池田玉季委員

何十年前はよく水が出ていた。自衛隊がボートを出して運んでいただいたけれども、時代とともにだいぶ改善はされている。黒目川は毎回浸水している。やはり再再見直しをしていかないと、命、安全はやはり一番大切。

○池田玉季委員

今、保育園でも、東京へ行っているお父さん・お母さんが多い。何かあったときは電車が止まってしまい帰って来られない。特に武蔵野線はすぐ止まる。対策はきちっとしているが、夕飯のこと、寝る準備のことも考えなければいけない。職員も帰宅できなくなることもあるので、そういう心づもりは日頃職員と話の中で行っている。

○丸山委員長

災害時のいわゆるBCPと呼ばれている、災害時に事業を継続していくと同時に、働いている人たちや事業所への支援もすごく大事。

○池田玉季委員

20年前の朝霞の目標として、住みやすい朝霞まちづくりが根底にあったかと思うけれども、今は非常に住みづらい朝霞というのが頭の中によぎっている。70を過ぎればもう車もやめなさいと息子や娘に言われ、そうすると、買い物に行くのも、もう近くにスーパーがなくなっている。このままだったら廃れてしまうのではと感じる。シャッターロードも増えた。朝志ヶ丘とかエビス商店街とか、あちらの方もだいぶ縮小されて。もう少し町おこしをやっていかないと、マンションばかりになっている。特に駅前など、ちょっと寄ってみたいお店がないから、若い人たちが離れていってしまっていると感じた。自分が歩けなくなったから尚更なのだろうと思う。

○丸山委員長

人は何かするためには移動しなければいけない。移動が難しくなると、気軽に寄れる所や居場所、買い物など、生活の基盤が減ってくるのが大問題。

○中村敏也委員

若い人がここで家を買えないので、他所に行ってしまう。地方から来た優秀な方たちが、東京に住むよりはと行って、朝霞などに来るから、朝霞にいられない人が増えている。

○横田委員

朝霞に住んでからの年数が5年未満がほとんど、40年から50年くらいの、ちょうど団塊世代がずっと住んでいて、両極端。

○横田委員

アンケートの回収率が悪いという話があったが、特に専門職はもう少しあればと思う。自由記述は本当に前向きで、とても丁寧。

○横田委員

民生委員も高齢化し、あとがつかないということが大きな問題になっている。今から若い人とペアで組んでやると、若い人の育成につながる。

○丸山委員長

どこかの地方で、こども民生委員みたいな形で、ペアで幼稚園や保育園の子が回るということをしているので、何か仕組みとしてあってもいい。

○横田委員

101ページの問5「高齢者の社会参加や生きがいづくりに対する支援」が41.8%が最も高いのが気になる。公民館等でも頑張っているので支援が見える化しないともったいない。

○横田委員

23ページ「現状のままでよい」が結構多い。近所付き合いが「現状のままでよい」が74.8%で、すごく現状に満足しているのかと思ったが、そういう見方でいいのか。いろいろ課題はあるけれども、でも、そこそこ距離も置きながら、切れてはなく、何かあれば走り込めるところもあるということか。

○池田玉季委員

ご近所さんの町内会離れの相談が多い。何もやらないわけではなくて、ごみ当番だけはするから、そのほかの仕事を免除してもらいたいと。かなりそういう声は増えてる。

○丸山委員長

町内会の組織率が8割くらいから4割弱に下がってきたが、その4割の中でも参加しない、できない人がいるということ。

○池田玉季委員

お金は払うから仕事はやめさせてくれという方も増えてきた。

○村串委員

最近、マンションが増えて、町会に入る率がすごく下がってきた。マンション1つで完結してしまって、一緒に何かをやる機会も相当減っている。その辺をうまく連携を取らないと。同じマンションでも、恐らく横は分かるけれども上は分からない。できれば町会に入っていて、一緒に何かできるといいのではないかな。

○横田委員

一昨日も、電話をしたが出ない方がいた。もちろん、詐欺被害などがあるので、仕方ないとも思ったが、もしこの方が災害に遭ったとき誰が声をかけてあげられるのだろうと。高齢者の孤立の問題、避難行動要支援者問題、振り込め詐欺など、複合的な課題を抱える高齢者には、やはり地域での見守りが必要。

○中村敏也委員

4月から放課後児童教室、こども教室ができるということで、解消するとは言っているのが、時間が夕焼けチャイムまでなので、7時くらいまで預かってほしいというニーズはどこで解決するのかなと、正直感じた。

○中村敏也委員

こどもが産まれない問題が大きく、保育園の0歳児は空きが出ている。そういう中で、こどもが産まれる施策があまり書いてない。例えば、保健センターでのイベントが月1回あったがなくなってしまったという意見があった。産まれたあともだが、マタニティ支援などの充実を。産後も例えば日常的に保健師が保健センターに常駐して、いつでも乳腺炎を診るとか、そのくらい優しさがある地域にしていかなないと、こどもは到底産まれないのではないかな。

○中村敏也委員

実情として一時保育事業はあまりない。これから「誰でも通園制度」が始まるが、朝霞では始まらない。満3歳児までの、家庭の中でひきこもってしまうお母さんたちへの支援がまだまだ足りない。

○丸山委員長

こどもの問題は、社協の地域懇談会の資料の中でも、28ページに合計特殊出生率が入っていて、朝霞は全国よりも低い。こどもが産みにくいか産みやすいかは分からないけれども、こどもが産まれていないということはデータである。ただ、人口は増えている。

○中村敏也委員

志木、新座、朝霞3市の中では一番高い。

○丸山委員長

埼玉県はすごく高齢者の課題が出たが、こどもの問題も課題。

○中村敏也委員

こどもの観点で、不登校のところが気になっている。43万人に増えた不登校問題は、朝霞市で不登校についてはあまり深くアクションされていないと思う。文科省で義務教育は学校以外でもいいと柔軟化した。学校以外で単位が取れるような仕組みなどが朝霞市にできると、もう少しこどもの多様性が保てるのではないか。こども家庭庁ができてアップデートしたことに対して、朝霞市もどんどん追隨してほしい。

○丸山委員長

学校だけではない選択肢というが、実は大人にとっても、職場と家庭以外の第3の居場所、つながる選択肢が増えるのが大事。

○丸山委員長

認知症高齢者で行方不明が全国ですごい数。どこかで誰かがつながっている、見守っているという仕組み、体制をもう少し見える形で作っていくことが大事。

グループディスカッション（B班）

○池田（直）委員

防災は、朝霞市の中だけで考えてよいのか、という点が気になっている。

○宮本委員

災害も、どの災害を想定するか。大規模な地震もあるが、朝霞市で身近なものは水害。それも全市的というより部分的。警察や消防では間に合わないアンダーパスの水没箇所の封鎖なども、地域が大きな力となる。大きなけがなどの医療となると、他市との連携などが必要。

○高麗（事務局）

朝霞市は、水害が多い。対応においても、他市と連携できれば、やりやすくなる。

○宮本委員

医療は担当部署があるし、地域福祉の中でも役割分担がある。市内の医療機関で難しい時は、他市や県・都と連携して対応する、身近なものは、地域の医療機関で対応する、など、多様なアイデアを書き込んでおくと安心できる。

○尾池委員

医療について、朝霞市はTMGあさか医療センターのほか、国立埼玉病院が連携しているのではないか。救急の際、どちらがいいか聞かれることがある。

○池田（直）委員

この地区は所沢と組んでいたが、今は川越と組んでいる。それは地域医療として、県が決めることとなる。今回の地域福祉の対象とは少し異なる。

○土佐副委員長

朝霞市は今までそんなに被害は出てこなかったが、福祉避難所に移動するとき、障害者、持病がある方などで、提供される食べ物（普通食）が食べられない問題には対応できているのか。

○宮本委員

災害対応も、ある意味縦割りになっている。災害が起こった時、避難所と避難場所の違いも知られていない。一時的に見の安全を守るのが避難場所。同様に、避難所と福祉避難所の違いも知られていない。避難所で対応できない場合にはじめて福祉避難所の開設依頼をするという流れになる。福祉避難所に指定されている特養があっても、そこにいきなり行くと、受け入れ体制ができていない。一般の人には、そうした違いについての周知や、いざ災害の時、実際に福祉避難所まで必要な人が辿り着けるルートがあるのか、ということを普段から地域で話し合っておく、というのが地域福祉。こういうものが必要だ、と専門部署に強く主張していくことも、事前の準備として大事。

○土佐副委員長

防災訓練の際、体育館の中に自分でテントをセッティングしたが、ペットの受け入れの問題があった。

○池田（直）委員

実際の災害時、避難所の開設などの経験はあるのか。

○尾池委員

第二小に避難した人たちは、教室にぼっと置かれた。

○池田（直）委員

練習できたことは、実際の時でもある。

○土佐副委員長

実際の時に、それぞれが行動できるかだと思う。

○尾池委員

高齢者の避難では、まずは逃げる場所、その後に夜寝る場所と心得ている。超高齢者は家族と連携して、直接避難所に行ってもらおう。

○山岸委員

高齢者の移動にバスなどがあればよいとの話があった。ベンチなどの休憩場所もあればいいと思うが、実際使っているのは、夜中ビールを飲んでいる若い世代で、翌朝ごみがちらかっている。使い方にモラルの問題が生じる。市の方から使い方の啓蒙ができないか。

○池田（直）委員

たばこを吸っている場合も。駐車禁止の看板のところに鍵をかけている人もいる。

○宮本委員

アンケートやグループヒアリングなどから、いろいろな意見が出ている。希望としては、進捗管理の目標値というか、評価項目になるとよいと考えている。ここに合わせて書かれると、ある意味やるべきこととなる。例えばベンチの設置と合わせて見回りをセットでやる、など。こういうことが課題で、こうしてほしいので、これこれを目標にすべき、という話ができればよい。

○池田（直）委員

朝霞は、交通問題がある。わくわくドームのバスは、どうせ赤字なのだから、タダにすべき。全てのサービスはインフラから始まる。

○尾池委員

それは、地区懇談会でも出ている。80を超える高齢者でも、スマホを使ってみたいとの意欲がある。足で出掛けられなくても、スマホで社会とつながれる。どこに入れるべきかは、今すぐは分からない。

○尾池委員

地区懇談会に出た人が、1回限りでなく同窓会のように集まれるようにしてほしい。5年未満の方が、朝霞にがっちり住み込めるようにしたい。

○宮本委員

地区懇談会の開催も、人数の評価だけでなく、何回も繰り返し参加する人がどれくらいかなども評価すべき。

○宮本委員

バスも赤字のものがあるが、外出すれば健康になる、いきいきする、介護給付費の抑制につながる。そうした個人の健康維持、社会とのつながりの強化といったメリットが上回れば、バスを無料にする意義もある。福祉面の効果も見ながら、市の利益全体でみてもらいたいということ、地域福祉の方から言っていただきたい。3年間無料にする、乗車数2倍を目標とする、プラス、無料化とひきかえに、地域活動への協力とか、アンケートに答えてもらうなどの条件を付けてもよい。無料バスに乗ることによって、社会的活動が増えたか、外出の機会が増えたか、ということアンケートを取りながら政策評価をしていけるとよい。市の広報や地域活動などの情報もバスの中で流すと、広告・周知の場としても機能する。

○池田（直）委員

進捗管理84ページも目標達成しているのに、それ以上目標を上げないのか。これはもっと目標を上げてほしい。今タクシーもなかなかつかまらない。わくわくどーむに行くにも、移動が問題。

○土佐副委員長

高齢者はタクシーを呼ぶのも難しい。サロン活動にも、元気な人は自転車でくる。参加できていない人に参加してもらうのが大事で、声かけしている。町内会も、高齢を理由に抜ける例が多い。掃除や班長も、抜ければやらないで済む。そういう時に、周りの人がサポートしてくれたらいいと思うが、それも難しい。

○土佐副委員長

不登校児童の親がサロンに参加してくれている。ストレス発散になっている。しかし、来られない人への声かけをどうしていくかが問題。

○池田（直）委員

年配の方で、リモートで参加するなどはないか。

○土佐副委員長

いない。

○池田（直）委員

外に行かなくても、雨の日でも、家でみんなでお話できるとよい。

○尾池委員

うちの場合は、ミニデイなども全て、福祉というよりも生涯学習の観点からやっている。講師も対象者に合わせて工夫しているので、やめる人も少なく、高齢者の社会参加に力となっている。

○尾池委員

アンケートをみると、民生委員や社協の認知度が非常に低い。少しでも知っている人が増えていくと、もう少し地域がつながっていくのではないかな。

○尾池委員

進捗管理の中、全体的に後期高齢者の記述が少ない。福祉計画の中にどのように降りてくるのか。

○山岸委員

アンケートを提出した人に対して、何か還元を。これはできました、できませんでした、ということができる方法があればよい。ホームページでも良い。

○宮本委員

アンケートに答えない人は、何で答えないのか、理由が知りたい。答えられない場合、その理由も聞きたい。多くの人は、結局答えてくれないかもしれないが、忙しくて答えられないなど。次回は、入口のところで、答える時間がない、答えたくない、なども設問に入れてはどうか。アクションがあるけれど、回答がない人、全くアクションがない人の割合を把握した上で、忙しくてアンケートに答えられない人への何らかのフォローが必要かもしれない、といった解釈ができる。予算もあると思うが、可能であればフィードバックをぜひ。回答してくれた方に対してアクションを起こし、その方たちから地域福祉のすそ野を広げてもらいたい。

○丸山委員長

では、全体の時間もあるので、そろそろこちらの方で時間を取らせていただきたいと思います。本当にもっと話したいことなどあったかと思います。また次回以降、新しい計画作りの中で意見を出しやすいような雰囲気を作っていきたいと思います。今回は各グループで出てきた話や意見をまとめて、各グループから手短に全体共有していただきたいと思います。

こちらは中村委員からお願いします。

○中村敏也委員

中村です。よろしくお願いします。

大きく分けて5つくらいの項目が挙がりました。1つは防災対策です。災害時の訓練とかそうい

ったものに関して、今は形骸的な訓練が多くなっている中で、地域特性に合った小さな防災訓練みたいなものをたくさん行っていった方がいいのではないかと。元気な体のまま避難して、3日間くらいだったらご飯を食べなくても生きていけるということで、まずは避難所まで行くような行動計画等をしっかりと結んでいき、その中で障害者や高齢者などの個別の避難計画等もしっかり行っていくというような丁寧な支援が必要なのではないかという意見がありました。

次に、まちの活力が少し弱くなっているのではないかという意見がありました。大きなスーパーなど、大きなものはできているのですけれども、近くのスーパーがなくなってしまうところとか、余暇でちょっとした出掛けののにいいなと思えるようなお店がなくなっているところとか、魅力がなくなっている。反対に、マンション等が多くなっているのも、朝霞で消費したり、朝霞で余暇を過ごす時間が少なくなっているのではないかという意見がありました。

あとは、住んでいる人のバランスがすごく不思議だという意見で、住んでいる期間が5年未満の方と40年以上の方の両極端になっているところで様々な問題が起きているのではないかという意見が出ました。その中で、高齢者の孤独問題というのが、今、大きな問題なのではないかと。特に101ページの、高齢者の生きがいがづくりが課題というところにすごく注目をされて、そのためにはどうすればいいのか、そういった場合は居場所等があった方がいいのではないかというような意見までありました。

あとは、子育て対策で、学童が足りない問題とか、産後ケアのものが少なかったりとかというところで、子育てがしづらい環境のままでいるのではないかと。また、不登校問題などもあるので、こどもが生きづらさを抱えたときに、第3の居場所みたいな所があって、そこで過ごすことによって義務教育を受けられるような仕組みもいいのではないかと。ここでも居場所というキーワードがあって、高齢者とか地域の方とか若者とかが一体となって過ごせる場所があった方がいいのではないかと。

ということは、最終的には、やはりご近所付き合いというところが足りてないのが様々な問題につながっているのではないかと。以上です。

○池田（直）委員

幾つか、このグループでありました。1つは同じで、防災です。本当に災害が起きた時に、机上の空論、実際、先ほど、夜中に起きたら、皆さん、市の人はこの辺にいないだろうし、訓練しても難しいと。あと、多分、他市とかほかの市との連携も必要になるのではないかと。お話がありました。

あと、高齢者の参加する機会を増やした方がいいのではないかと。あと、スマホとかパソコンとか使えるように。高齢者が参加するためには、あまりにも朝霞市の公共交通がプアで、バスもあまりないしタクシーも使わないということで、もう少し高齢者に優しい、例えば無料パスを出すとか、私は全部無料にしろと言ったのですが、それは…という声もあり、80歳以上とか75歳以上は値引きをしてあげるなどして、それで、結果的に高齢者がスマホとかリモートなどを使えるよう

になると、例えば、その場に行かなくてもリモートでお話ができたりなどできるようになれば、それも安否確認になるし、毎日リモートの会議のようなものでお話しすることで高齢者の認知力も維持できるという話だと思うのですけれども、出ておりました。

それから、最近、ごみが捨ててあったり、たばこが捨ててあったりしてまちが少し汚いのではないかと。それはやはりモラルの問題なので、モラルを上げるように市の方でそういう工夫をしてくださいということです。

あとは、アンケートです。今、こういうアンケートをされるときに、私たちは回収率が少ないと思っているけれども、でも、やはりアンケートをくれた人に関して、回答を受けたらこちらも返してあげないと、今後、こういうアンケートは持続可能ではないのではないかと。結果を簡単にまとめて、全てお礼でありがとうございましたと出してあげるなども必要ではないかと、ということでした。すみません、少し抜けているかもしれませんが。

○丸山委員長

ありがとうございました。2つのグループで、本当はそれだけではなく、たくさんの意見が出たかと思います。それぞれ出た意見は、各グループに事務局の方も入っていましたので、たくさん聞いたりメモったりしたことをぜひ反映していただければと思っています。

共通して、幾つか出てきています。やはり災害時のこと、防災のことは、非常にいつも、3.11に近いからではなく、ここ数年、やはりたくさんの課題が出てきています。これは待っていたら助けてもらえる問題でもないの、どう考えていくのかとか、どう助け合うのか。そして、自宅で被災するかもしれないけれども、出先かもしれないということも考えたりしながら、やはり、地域福祉ということを考えるときには外せない大きなテーマだと思いました。

あとは、今回、2つの班から出てきていたのですけれども、参加とか、地域のまちづくりの視点がどちらも出ていて、考えてみると、高齢者も障害を持つ人も、こどもも若者も、我々働いている世代も、地域の中に参加していくということが出来るような仕組みとか場所とか、そういうものは本当に大事な支援策だと思いました。

先ほど無料パスの話がありましたけれども、そうするとすぐ財政という話にどこの自治体もなるのだけれど、そうすると、実は、1個のエビデンスとしてよく言われるのが、それを奪うことで移動しなくなって、外出をしなくなることで医療費がたくさんかかってしまう。要は、老化が早くなってしまっていて、そして、生きがいがなくなるので、結果的に国の全部の財政で見たときにはマイナスになってくるとい、いろいろなデータもあるのですけれども、そういう見立てもあったりします。どこに力点を置くかというのはあるにせよ、ない袖は振れないので、確実にお金を付けてではないけれども、でも、こんな施策が必要ということは、今出た意見やアンケートのデータも踏まえて、また検討できればと思います。

皆さんから出していただいたいろいろな細かい論点も含めて、4月以降の会議でまた皆さんの意見を聞いていきたいと思っています。今日は30分くらいでしたけれども、ディスカッションをさせて

いただきました。ありがとうございました。

◎ 3 議題（４）その他

○丸山委員長

では、そのまま次のところに入りたいと思います。議題（４）「その他」の関係で、事務局から残りの資料の説明をお願いしたいと思います。

○事務局・下川主任

皆さん、本日はありがとうございました。こうしていつもと違う形で意見を出し合うことで、それぞれ皆さんの立場からいろいろな意見が出てきて、聞いていてとても面白いと感じました。ご協力ありがとうございました。

まだ触れていない資料につきまして、最後に３点ほどご報告をさせていただきたいと思います。

まず、１点目です。現在、本市で策定中の第６次総合計画についてご報告させていただきます。資料３－１、３－２をご覧ください。資料３－１は、本市の最上位計画である、現在進行中の第５次朝霞市総合計画の施策体系図でございます。資料３－２は、令和８年度から令和１７年度までの１０年間の第６次総合計画の施策体系図になります。第６次総合計画につきましては、令和５年度から令和７年度までの３年間で策定を進めており、これまで１２回にわたる総合計画審議会を経て、その柱立てが定まってまいりました。これまでの第５次総合計画では、柱の構成として、地域福祉、障害福祉、高齢者福祉などの柱をそれぞれ立てておりましたが、次の第６次の計画においては、資料３－２にあるとおり、「地域共生社会の推進」という１つの柱の中に全て含めていく形になっております。その背景としまして、これまでは地域福祉、生活困窮者、障害、高齢者等の課題について、縦割りで事業を進めてまいりましたが、やはり先が見通せず、部署間の連携を図り、横串を通していかないとサービスの推進につながらないという課題が見えてきたため、福祉部門として共通の課題を持つことが重要であることが明確になってきましたので、より連携を強化するために「地域共生社会の推進」という１つの大柱に含めております。こちらの体系図はまだ素案のものにはなりますが、地域福祉計画においてもこのような構成を視野に入れながら策定を進めてまいりたいと思いますので、本日、ご報告をさせていただきました。

続きまして、２点目です。資料４－１、４－２をご覧ください。この２つの冊子ですが、今年度、第４期の地域福祉計画・地域福祉活動計画の進行管理・評価を行うために、本委員会の中で皆様からご意見を頂戴してまいりました。いただいたご意見につきましては、こちらの資料の中の、事業ごとの評価シートが一番下に「推進委員会からの意見」という欄がありますので、そちらに可能な限り盛り込ませていただき、令和５年度の実績に対する評価の完成版として、本日、お配りさせていただきました。こちらの評価は、各事業を行う市役所の担当部署や社協の各部署にフィードバックしまして、今後の取組に生かしていきたいと思います。これまでたくさんのご意見をありがとうございました。

最後に3点目です。資料5をご覧ください。令和7年度の地域福祉計画・地域福祉活動計画策定に関する大まかなスケジュールになります。本委員会は年4回予定しておりまして、次回は5月下旬から6月頃に、これまでの調査結果等を基に骨子案を検討する予定でございます。その後、2回目の委員会は9月頃に開催し、素案の検討を行います。11月頃に3回目の委員会で、素案の検討の2回目ということで予定しております。12月には、出来上がった素案でパブリックコメントを行いまして、広く市民から意見を募集いたします。パブリックコメント実施後、修正を加えたものを最終案としまして、第4回目の本委員会において皆様にご確認いただく流れとなっております。開催日時等の詳細は、決定次第、早めにお知らせしたいと思っておりますので、来年度におきましてもうぞよろしく願いいたします。

事務局からは以上でございます。

○丸山委員長

ありがとうございます。今年度としては今日が最後ですけれども、来年度、令和7年度は具体的に次の地域福祉計画・地域福祉活動計画を策定していくことになります。最終的には、そこにありますパブリックコメントを経て、最終案を作って、これは議会承認ですか、議会報告でしたか。

○事務局

承認は取っていません。

○丸山委員長

特に取ってないですね。いずれにしろ、最後の確認までに1年くらいはあるわけですが、会議が4回しかないで、それぞれいろいろな案を示していただいたあと、今日のように、またいろいろな意見を出していただきつつ、今日の会は、まだこのアンケート調査なども全部読み切れてないという方もいると思います。なにせ字がすごい量なので、私も斜め読みでしか読めていないくらいで、グループでディスカッションして、「あ、そういえばそんなことを書いてあった」と思うくらいたくさん量があります。なので、各会議ごとに、そのあと持ち帰って、もう少しこういうことを言いたかったとか、提案があるとか、質問があるという場合は、事務局の方に寄せていただいて、また、次の会の時に、そこも含めてどれだけフィードバックできるかということを繰り返していきたいと思います。

ということで、今日もアンケートの報告、それから、懇談会のデータ、本当に大量にあります。ここに書かれていることは、確かに回答率は3割くらいですが、それでも、答えていただいた市民の一人一人の方々の意見や考えなどが入っているものです。数字で示されるものだけではなくて、自由記述も含めると本当にたくさんの意見や提案が書かれています。こういったところを、委員のそれぞれの皆さんの目線や経験で読んでいただくと、こういうことを言いたいのではないかと、こういう施策があるのではないかとという提案が皆さんの中から出てくると思います。そういったものを持ち寄って、ぜひ次期の計画に反映できればと思っていますので、今後ともよろしくお願いいたします。

◎4 閉会

○丸山委員長

今年度は今日が最後になります。また、来年度4月から、よろしくお願いしたいと思います。

それでは、今日の委員会はこれで終わりたいと思います。各グループでディスカッションをしていただきまして、ありがとうございました。お疲れさまでした。